

緩すぎる規制基準 命と生活を守れない 玄海 3・4 号機再稼働「審査書」決定の撤回を求めます

原子力規制委員会委員長 田中俊一様

本日1月18日、国・原子力規制委員会は九州電力玄海原子力発電所3・4号機再稼働の「審査書」を決定しました。

東京電力福島第一原発事故は大量の放射能をまき散らし、5年10か月経った今なお収束せず、「原子力緊急事態宣言」発令中のままです。事故原因も検証されていません。約9万人もの住民が故郷を追われたままです。そうした中で玄海原発の再稼働強行は、フクシマの甚大な犠牲を踏みにじるものであり、国民を再び原発事故の恐怖に陥れるものです。審査書決定に抗議するとともに、撤回を求めます。

田中委員長は、これまで審査について「基準の適合性は見ているが、安全だとは申し上げない」と繰り返し発言してきました。さらに、昨年11月9日の玄海の審査書案を了承した際には、「住民が安心するかどうかは審査とは別問題」と述べました。安全が保障されない、つまり、事故を大前提とした再稼働に、私たちが安心できるわけがありません。この国の規制当局トップのあまりに無責任な発言に、怒りを禁じえません。

直近でも、昨年12月、島根原発2号炉の中央制御室の空調配管が腐食で穴だらけだったことが判明しましたが、玄海原発も保温材をはがしての検査を1度も行っていません。

また、昨年フランスで大問題となった原子炉等の強度不足について、玄海3・4号機の原子炉容器の上蓋と胴部、2号機の上蓋が、問題となった日本鍛鋼製のものでしたが、現物検査も行わず、書類の確認だけで、規制委は問題なしとして幕引きを図りました。

それだけではありません。これまで私たちは、おびたしい数の問題点を国や九電にその都度指摘してきました。

1. 地震が頻発する日本列島では原発震災の危険性が高い。しかし、基準地震動が過小評価となっている。熊本地震のような連続大地震に耐えられる設計となっていない。
2. 水素爆発や水蒸気爆発等、重大事故時の安全対策が過小想定であり緩すぎる。
3. 最も重要なクラス1配管について、内側の損傷等発見できる検査体制になっていない。
4. 猛毒プルトニウムを使う3号機プルサーマルはウラン燃料よりもさらに危険性が高まる。核燃料サイクルは破たんしており、プルサーマルは中止すべきである。
5. 福島原発事故で有効だった免震重要棟の建設を「工期短縮」を理由に撤回した。
6. 原発事故時の避難計画は放射能被ばくを前提としており、住民の命を守ることはできない。
7. 使用済み核燃料(=核のゴミ)の処分方法が決まっておらず、10万年の管理を未来の世代に押し付けることになる。
8. ウラン採掘から廃炉に至るまで、被ばく労働は命を傷つける。

危険性を危惧する専門家からの指摘や、市民の不安の声に、あなたはどれだけ真摯に向き合ったのでしょうか。そして、もし事故が起きたら、責任をどう取るつもりでしょうか。命の責任は、取りようがありません。原発の最大の問題は放射能を生み出し、私たちの命の安全を将来にわたって脅かし続けることなのです。

玄海原発で事故が起きれば否応なしに放射能の被害を受けるのは私たち住民です。佐賀、福岡、長崎はもちろんのこと、偏西風により日本中の国土を放射能汚染で失うことになりかねません。

海の幸、山の幸、大地の恵みをいつまでも安心して食べたい。子ども達をのびのび育てたい。そんな平凡な暮らしを一瞬で奪い去るのが原発事故なのです。

私たちのふるさとの大地と自然、命と暮らしを守るために、玄海原発再稼働に絶対反対です。

審査書の撤回を求めます。

2017年1月18日

提出者：玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会／玄海原発反対からつ事務所／プルサーマルと佐賀県の100年を考える会／原発を考える鳥栖の会／今を生きる会／風ふくおかの会／戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会／東区から玄海原発の廃炉を考える会／福岡で福島を考える会／えとう真美とレインボープロジェクト／怒髪天を衝く会／市民連合オールむなかた／さよなら玄海原発の会・久留米

連絡先) 玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会 090-3949-2103 (永野)